

医療分野国際科学技術共同研究開発推進事業  
e-ASIA 共同研究プログラム（感染症研究分野）  
令和3年度事後評価  
課題評価委員会における主な指摘事項

研究開発課題名	アルテミシニン併用療法に対する耐性マラリアを検出する新規診断法の開発
研究開発代表者	岩永 史朗
代表機関	大阪大学

○評価委員会コメント

本研究課題では、タイのマラリア患者由来 **ACT**（アルテミシニン併用療法）耐性株を獲得し、新規の薬剤耐性遺伝子の同定を含め、各種遺伝子と治療薬耐性との関連性を明らかにした。また、転写制御の変異が薬剤耐性に関与することを新たに報告すると共に、**LAMP** 法による診断法の開発を進めるなど、多くの成果が得られた点が評価委員会で高く評価された。これらは、東南アジアにおける薬剤耐性マラリア対策上有用な所見となり得る。

一方、アルテミシニン耐性に関連する染色体領域の同定は出来たものの、研究期間内に遺伝子を特定することは出来なかったと思われる。また、臨床応用可能な **LAMP** 法の開発については、臨床レベルでの検証が行われておらず、当初計画された目標には到達していないと指摘された。加えて、インドネシア側の報告が少なく、インドネシアへの技術移転の進展状況が不明瞭であった。

人材交流においては、**COVID-19** の流行下において対面での交流を制限せざるを得なかったことは理解できるが、オンラインを活用するなど、より工夫した交流を目指す必要があったのではないかと思われる。一方、現在、研究開発代表者のもとにインドネシアから博士課程の留学生が受け入れられていることについて、本学生がインドネシアへの技術移転において今後重要な役割を担う人材へと育成されることに期待が寄せられた。